

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500696
法人名	有限会社 ケア・ポート ヒロタ
事業所名	グループホーム サルビア
所在地	福岡県宮若市宮田41-5 (電話)0949-32-1300

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年11月3日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供項目より】(19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 12 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	15.85 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

登録人数	18 名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3	要介護2	2		
要介護3	10	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.72 歳	最低 72 歳	最高	96歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安倍医院、原三信病院、中村病院、ひろた消化器内科クリニック、大林歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームサルビアは、2006年に宮若市の商店街の一角に設立された2ユニットのホームである。親族が開業していた医院の跡地での開所であるため、近隣に顔なじみの住人も多く、また日ごろの地域との交流から、車椅子を利用している入居者が神社を参拝しやすいようにと、地域の協力で歩道が整備されたりしている。

管理者の思いである「みんなで、楽しく笑顔の耐えない」との運営理念の下、家庭的な環境の中で、協力医療機関の連携や管理者の親族の医師の協力などで医療面でのバックアップもあり、入居者や家族に安心・安全を提供している。また、栄養士、歯科衛生士、看護師など多職種の職員がそれぞれの専門分野を活かしながら、利用者の生活にごく自然に寄り添っている。管理者は職員に安定した職場を提供するために、勤務時間内で研修参加を支援したり社会保険の整備し、積極的に介護従事者の育成、介護労働の安定を図っている。そして、市内のグループホーム10箇所と相互の情報交換や研鑽の場として「GHみやわか」を発足し、福祉祭りに出店したりパネルディスカッションを企画し、地域密着型サービスの向上を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点である、経営理念の掲示や金銭管理台帳の整備を行っている。ホームに閉じこもらない支援として祭りの出店など積極的に地域との交流に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットで取り組んで、職員全員で記入し自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に関する規定も整備され、2ヶ月ごとに適切なメンバーで開催し状況報告が行われているが、前回の外部評価の報告の記録がない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	ホーム便りで定期的にホームの状況を知らせている。日々の暮らしぶりや金銭管理や職員異動などの報告は、誕生会、敬老会などの行事の際や家族の訪問時に行っている。成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットを整備し、入居初期に説明をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	福祉祭りの運営に関わり、認知症地域密着サービスとしての啓発を呼びかけたり、町内会への参加、祭りの出店など積極的に地域行事に参加できている。「車椅子での参拝が困るだろう」と神社側時からの申し出で歩道の整備が行われたり、地域の行事の獅子舞や盆踊りがホーム玄関まで入って披露してくれるのを入居者は楽しみにしている。管理者親族が地元出身であるため、自然な双方向の付き合いが出来ている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんなで楽しく、笑顔の絶えない」の理念をホールの玄関の見えやすいところに掲示しておりホームページ、パンフレットにも地域と触れ合いや地域とのコミュニケーションを記載している。重要事項説明書、契約書に「地域との交流の下・・・」の記載はない。	○	重要事項説明書等に「地域との交流の下」の記載をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は日々の暮らしの支援の中で事業所の理念を共有し実践できる様、ミーティングや介護計画作成時に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉祭り企画に関わり、認知症地域密着サービスとしての啓発を呼びかけたり、町内会への参加、祭りの出店など積極的に地域行事に参加できている。「車椅子での参拝が困るだろう」と神社側時からの申し出で歩道の整備が行われたり、地域の行事の獅子舞や盆踊りがホーム玄関まで入って披露してくれるのを入居者は楽しみにしている。管理者親族が地元出身であるため、自然な双方向の付き合いが出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が個々にレポートを作成後、全職員の意見を聞きながら、グループホームとして取り組むことを確認している。前回の外部評価の改善点についても、金銭管理台帳の整備や理念の見やすいところへの掲示など具体的な取り組みがある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程も整備され、適切なメンバーで定期的に状況報告やサービス内容の検討、地域との意見交換が行われている。前回の外部評価結果は報告しているが、記録がない。	○	今後の運営推進会議に活用するためにも、外部評価結果の報告も議事録に記載をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段、ホーム単独で情報交換など呼びかけてもなかなか個別では連携がとりにくいのが実情であるため、市内のグループホーム10箇所と「GHみやわか」と銘打った会を発足している。その会で「福祉祭り」に出店し、市担当職員と情報交換を行うようにしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットを整備し研修に参加している。入居初期には成年後見制度について説明をしているが、記録をしていない。	○	入居者の権利擁護が行われていることが実証できる様に、成年後見制度等の活用の有無に関わらず、入居の早い段階及び随時制度等の説明や記録をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りで定期的にホームの状況を知らせている。日々の暮らしぶりや金銭管理や職員異動などの報告は、誕生会、敬老会などの行事の際や家族の訪問時に行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会にあわせて家族会を行い、意見交換できる様になっている。ホーム内に目安箱を設置しているが、投書はない。運営推進会議で家族の意見が多く得られるように、2家族の参加をお願いしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を出さないように、職員と日ごろから話し合うようにしている。ユニット間の移動はなるべく行わないようにしているが、一階のユニットに身体介護が必要な入居者が多いため、腰痛などが悪化しないよう異動することがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	年齢にあった援助の仕方やよさがあるとの考え方から、職員の採用は老若男女の区別はない。採用時初回の面談は管理者が行わず、「一緒に働くものの視点から」採用面談を行えるよう現場従事者が行っている。雇用契約書・服務規程・就業規則など整備されている。研修会には勤務を調整し、参加できる様に配慮している。職員の休憩場所の確保やストレス解消のために忘年会、花見、食事会などを行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者は行政主催の人権問題地域懇談会に参加し、その内容を職員に伝達し人権教育・啓発に取り組んでいる。人権パンフレット、身体拘束虐待防止マニュアルも整備されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修に勤務時間内に参加できる様調整している。年間研修計画も立てられており、計画的に人材育成に取り組んでいる。参加した研修内容を職員全体に伝達できるように、報告や回覧などを行っている。事務長や介護支援専門員が職員の悩みごとの相談を受けている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入し、Fブロックの研修会などに参加している。また市内10箇所のグループホームで「GHみやわか」を発足し、意見や情報交換ができる研鑽の場を設け、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約の初期対応には管理者や介護支援専門員が自宅や入院先に訪問したり、家族と一緒に見学をしていただき安心して入居していただける様、支援している。最近では近くに住んでいた入居者が増え、馴染みながらのサービス利用がスムーズに行えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から、昔ながらの生活習慣や漬物などの保存食の作り方、家事など多くのことを学んでいると日々の会話や介護の中から支えあいながら過ごしていることを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦・職歴による習慣、意向などを把握し、記載したアセスメントシートを整備しているが、日々の役割や希望の実現を介護計画書第3表に記載していない。	○	週間スケジュールの把握のため介護計画書第3表の記載をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者家族の意向を聞き取り、健康状態や生活暦・生活習慣を配慮し、看護師や歯科衛生士、栄養士、介護福祉士など多職種共同で検討し、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごと、利用者の状態像が変化したときに見直しが行われている。本人、家族の意向も取り入れ現場従事者と話し合いながら計画を見直している。見直しの後、介護計画書第一表の書き直しが行われていない。	○	利用者、家族の意向や状況の変化を把握し、ニーズの変化も介護計画書2表に記載しているの、見直しの際、介護計画書1表への転記をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとして単独で開設している。介護保険給付外自主サービスは行っていない。	○	入居者の故郷訪問など検討してはいかがでしょうか。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診は、主治医からの説明が家族に直接行われるように、ご家族の受診同行をお願いしている。協力医療機関の受診記録は整備している。	○	家族への協力医療機関の受診結果報告は記録をお願いしたい。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を整備し、入居時の段階から説明し記録も整備している。管理者の親族である医師や看護師と24時間連絡がとれるので、助言・相談等で情報の共有化に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護の方針を掲示し、個人情報の利用目的について入居者や家族に説明し同意を得ている。法令順守の研修や人権の尊重に関する研修に参加している。利用者の尊厳に配慮した言葉かけや対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や就寝時間、食事の時間などは個別に対応するようにしている。決まりがあるわけではないが、ごく自然に食事は一緒に開始し、他の利用者が終わるまで下膳を待つ事が、日常の生活習慣として行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前の職業経験を活かして、生き生きとして配膳を行っている入居者もいる。全盲の入居者にも食材・調理方法を説明し、食事を楽しめる工夫をしている。「後片付けは自分で行う、出来ない事は手伝う」事を生活習慣として取り入れ、職員も共に食事を楽しむようにしている。管理者が季節の食材を調達して、食事を通じて四季が楽しめるように配慮している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があれば、午前・午後入浴は自由である。夜間入浴は、希望がないので行っていない。入浴を拒否する入居者には無理強いをせずに着替えを手伝うことからアプローチを行ったりして工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴や生活歴をアセスメントし、日々の役割や楽しみが引き出せるようにカラオケや裁縫、習字など個別に対応をしている。夫婦で入居している入居者に食事は一緒に食卓を囲むように配慮したり、踊りの腕前を披露できる機会を設けている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ファミリーレストランに出かけたり、大型スーパーに数人ずつで出かけたり、古くから馴染み商店街の呉服屋さんに出かけたり、神社に参拝したり、四季折々の花見に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	商店街に位置し頻りに人や車の往来があるので、各階の出入りにセンサーの取り付けを行い、人の出入りが音で職員に分かるようにしている。夜間10時から翌朝5時以外は施錠していない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアル、緊急時連絡一覧表、消火器の設置、緊急時備蓄の整備があり、消防訓練も実施している。近隣の交番の巡視も行われており、外出傾向のある利用者が入居した際には交番にも協力をお願いするなど、日ごろから働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が一日の摂取カロリーを考え、献立を立てている。一日の水分量も定時で摂取する以外は記録している。嚥下状態や一回摂取量の少ない入居者に対して、職員全員で把握する仕組みを整えている。毎月初めの入浴時に体重測定を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な玄関からリビングの壁は明るい色調に統一され、観葉植物や季節に合った調度品が飾られており、採光の調整や窓の開閉もこまめに行われている。上がり座敷の畳敷に腰掛けたり、横になったりできる様にしている。対面式のキッチンからは、炊事の香りや心地良いまな板の音が聞こえ、掃除も行き届いている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やなじみの家具、鏡台などが持ちこまれており、入居者の申し出があれば畳も利用できる様に準備している。		